

平成30年度 施政方針 (要旨)

第412回市議会定例会

第412回宜野湾市議会の開会に臨み、今年度の宜野湾市一般会計予算をはじめ、各特別会計予算及び関係議案のご審議をお願いするに当たり、第四次宜野湾市総合計画基本構想に掲げている6つの基本目標に沿って、各施策を申し述べ、議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力を賜わりたいと存じます。

基本目標1 市民と行政が協働するまち

▼「協働のまちづくりと開かれた行政の推進」
「宜野湾市市民協働推進基本方針」及び「宜野湾市市民協働推進実施計画」に基づき、地域課題の解決に向け、多様な主体が連携・協働し、担い手の育成や話し合いの場づくりを進め、住民自治による地域づくりを促進します。

児童虐待等の予防及び対応として、乳幼児健診等の各種母子保健事業や、宜野湾市要保護児童対策地域協議会を中心としたネットワークを構築し、虐待の早期発見と被害児童及び加害者への適切な対応に努めます。DVの防止と被害者支援の強化に関しては、DVのない安心な社会の実現を目指します。また、被害者の精神的なフォローなど、被害者の自立を支援します。

▼「障がい者(児)福祉の充実」
障がい者の自立に向けた就労支援や、障がい児やその家族が安心して生活できるよう早期支援を行います。重度心身障害者(児)医療費助成給付事業については、本年8月診療分から自動償還払い方式を導入します。

▼「高齢者介護・福祉の充実」
「第7期宜野湾市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、その基本理念である「チュイシージー」の心で支えあう「高齢者が笑顔で住み続けるまち ぎのわん」を推進します。市指定地域密着型サービスの質の確保を図るため、利用者に適切な介護サービスの提供を行う体制整備に努めます。

認知症施策については、早期診断・早期対応できるよう各事業の充実及び認知症への理解を深めるための普及・啓発活動を行います。高齢者の健康・安心を築くため、市社会福祉協議会等と連携し、生きがい対応型デイサービス事業を支援するとともに、宜野湾市シルバースポーツ事業を

地域コミュニティの核となる自治会に対しては、自治会加入促進の取り組みを強力に推進するため、宜野湾市自治会育成補助金を交付し、自治会運営の支援を行います。また、自治会長会、市社会福祉協議会、宜野湾・中城地区宅地建物取引業者会及び本市で共同制作した、自治会加入促進パンフレットを活用し、自治会加入世帯数の増加に取組みます。

▼「男女共同参画の推進」
「第3次宜野湾市男女共同参画計画」は、ごころも「づらん」に基づき、諸施策を進めます。

▼「国際・国内交流の推進」
多文化共生社会の実現に向け、在住外国人に対する情報発信や来庁者への通訳など、日本人も外国人も共に暮らしやすいまちづくりを目指します。また友好都市である中国廈門市の厦門理工学院への留学生派遣事業も継続実施し、国際感覚豊かな人材育成に努めます。

▼「効果的・効率的な行財政運営の推進」
社会保障・税番号制度(マイナンバー)制度により、昨年11月から、国や地方公共団体等における情報連携業務が開始されました。加えて本年1月には、全国のコンビニエンスストア等にて、本市の住民票や各種証明書が取得できる「証明書コンビニ交付サービス」を開始しました。サービスを利用する際に必要となるマイナンバーカードについても、より一層の普及促進に努めます。

▼「生活困窮者世帯への支援・労働福祉の推進」
低所得者の生活の安定を図るため、包括的な相談支援の充実に努めます。子どもの貧困対策については、生活保護世帯や困窮世帯の高校進学率向上を目指し、子どもの学習支援事業を実施するとともに、「子どもの居場所」の拡充にも努めます。また、子どもの貧困対策事業を効果的に推進するため、子どもの生活実態調査を実施し、中長期的な子どもの支援対策計画の策定に取組みます。

▼「健康づくりの推進」
生涯を通じた健康づくりを支援するため、各種健康教室の充実を図り、疾病予防対策として特定健診をはじめ、各種がん検診を実施します。また、真栄原地区のモデル地区活動の継続と、受診率の高い自治会や受診者数の増加があった自治会への報奨金の授与など、特定健診受診率の向上に取組みます。今年度より、特定健診の結果を活用した糖尿病性腎症重症化予防事業を実施し、医療費の抑制に取組みます。

▼「子どもの健康管理を図ることを目的に、極めて感染力の高いおたふくかぜの予防接種費用を、1歳児を対象に継続して全額助成するほか、小児のB型肝炎ウイルスの予防接種も実施します。さらに、妊娠前から子育て

民生活の向上と行政施策の課題解決への取り組みを実行していくためにも、民間活力の導入など、行財政改革を断行し、人員及び財源の確保に取組んでまいります。

▼「民間事業者の活用」としては、昨年4月より、はごろも学校給食センター及び大山学校給食センターの調理業務、本年2月より、公立保育所の調理等業務の民間委託を実施しました。今後、国や県からの権限移譲をはじめ、幼保一元化に向けた取組みなど、高まる行政需要へ対応するため、組織体制の維持・強化も図ります。

▼「新たな財源確保策」として宜野湾市立野球場に本市初のネーミングライツを導入しました。愛称を「アトムホームスタジアム宜野湾」と決定し、本年2月よりスタートしています。引き続きネーミングライツに取組むほか、市の保有する資産を有効活用するアイデアを募集し、自主財源の確保と地域経済の活性化を推進します。

▼「本年度は専門的知見を有する外部の視点を取り入れた、行財政改革調査・検証事業に取組み、効果的・効率的な行財政改革を強力に推進します。職員の人材育成については、人事評価制度を公正かつ適正に実施し、職員の資質向上に努めます。」

▼「地域福祉の推進」
基本目標2
健康で、安心して住み続けられるまち

▼「文化を育み、心豊かな人を育てるまち」
基本目標3
文化を育み、心豊かな人を育てるまち

▼「未来を担う人間力の育成」
幼児教育の充実を図り、保育所(園)、幼稚園及び小学校の連携体制を構築し、小学校教育への円滑な接続を図ります。

▼「小中学校教育については、宜野湾市教育振興基本計画」に基づき、より一層の学力向上に努めます。
特別支援教育については、幼稚園、小学校及び中学校へ特別支援教育支援員を派遣し、支援を必要とする幼児・児童・生徒に適切な指導や支援を行います。

▼「国際化に対応できる外国語教育の充実を図るため、小学校英語教育課程特別校事業や、中学生を対象に英語検定料の半額助成を継続実施します。加えて将来、グローバルな視野で海外でも活躍できる人材を育成するため、宜野湾市中学校短期海外留学派遣事業を実施します。
豊かな心・健やかな身体(からだ)の育成のため、道徳教育及び人権教育の充実を図ります。また、児童会・生

誰もが安心して暮らすことのできる「チュイシージー(互いに助け合う)」の福祉社会の実現を目指すとともに、市民が地域を支える担い手として地域活動への参加を促進します。地域の相談窓口であるチュイシージーセンターの機能充実に努め、支え合い活動の内容充実に取組みます。

▼「子育て支援・子育て環境の充実」
すべての子どもに良質な育成環境を保障し、健やかに成長させることができる社会の実現を目指します。待機児童対策については、認可保育園の創設等を行い、待機児童解消に努め、保育士の処遇改善及び潜在保育士への情報提供等による保育人材確保にも取組みます。また、認可外保育施設の支援についても、入所児童の処遇改善を図ります。

▼「児童の健全育成に向けた取組み」として、放課後児童クラブの利用者負担軽減事業について、今年度より対象者の範囲及び補助金額を拡充します。子ども医療費助成事業については、通院医療費は小学校6年生まで、入院医療費は中学校卒業までを対象として助成を実施します。また、沖縄県の制度改正を受け、本年10月より0歳から就学前までを対象として現物給付方式を導入し、安心して子育てができる環境を整備します。

▼「ひとり親家庭の生活の向上と安定に向け、就労支援や生活支援、子どもたちへの学習支援等を実施します。」
▼「児童虐待・DVの防止と被害者支援の強化」

▼「児童虐待・DVの防止と被害者支援の強化」
児童生活が送れるよう、学校と地域、家庭が連携・協働する組織体制の確立に努めます。
学校給食については、これまで以上に安全・安心な給食を提供するとともに、学校給食を通して正しい食生活への理解と、望ましい食習慣をつくる食育の指導を進めます。また、子育て支援の一環として、小学校給食費助成事業を実施し、保護者の負担軽減に努めます。

▼「地域に開かれた学校づくりの推進」
学校、保護者及び地域住民が一体となり、子どもたちを育む「コミュニティ・スクール」を設置します。今年度は、はごろも小学校、宜野湾中学校をモデル校に指定し、順次全小中学校への導入を進めます。

▼「学校施設の整備については、今年度の工事完成に向け、志真志小学校校舎増改築事業に取組み、大謝名小学校屋内運動場・水泳プール増改築事業も、今年度より基本設計及び実施設計に着手します。また、真志喜中学校及び普天間中学校の屋外教育環境整備事業や、普天間中学校防音機能復旧事業及び大規模改造事業などに取組みます。」

